

大門のしめ縄（岡崎市）の紹介



資料作成協力：大門しめ縄組合

大門のしめ縄の歴史

岡崎市の大門地区でしめ縄作りが始まったのは明治の中頃で、昭和12年頃から需要が増大し、副業としてしめ縄作りが本格化しました。昭和30年代に入ると、高度経済成長の到来により、生産量が飛躍的に伸びました。当初は岡崎市内の繁華街の歳の市で販売し、親しまれていましたが、大型店などの進出で直接販売することが困難になってくると、昭和50年頃から地元や名古屋市の卸売市場に共同出荷を始め、現在に至ります。

当初は、小売店も戸惑いを見せ売行きも今一步でしたが、青刈り稲を使用した大門のしめ縄は品質も良く、年を重ねるごとに評価も高まり、岡崎市のブランド化推進品目にも指定されました。近年では、伝統を受継ぐ組合の取組みが評価され、県や国から表彰を受けています。

地域への取組み



大門小学校生徒によるしめ縄の配布
（交通安全キャンペーンにて）



岡崎市農林業祭
しめ縄づくり実演と体験

製品紹介

